

macOS

初心者のためのGolden Gateアップグレードガイド

An iMac monitor is shown against a background of abstract, flowing golden-brown shapes. The screen displays a dark blue background with a white rectangular box in the center containing Japanese text. The Apple logo is visible on the front of the monitor.

macOSの最新バージョンがリリース されました。

AppleはmacOSのメジャーアップデートを毎年リリースしています。IT・セキュリティ部門には、日々の業務や生産性を損なうことなく、エンドユーザが新しいシステムとその機能を活用できるよう支援することが求められます。

Appleのアップグレードの特徴

他のオペレーティングシステム (OS) とは異なり、AppleはOSの大型リリース (別名「アップグレード」) を1年に一度行います。この対象は、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS、visionOSです。

デバイスのOSを古いままにしておく、一貫性、セキュリティ、およびユーザエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。IT部門がさまざまな種類のデバイスや複数の地域をサポートしなければならない場合、デバイスを簡単かつ速やかにアップグレードすることがさらに重要になります。

プロセスがシンプルなこと、そして無償で行えることにより、AppleのOSのアップグレードは業界トップレベルの導入率を誇ります。エンドユーザは新機能の利用を楽しみにしていますが、IT管理者には常にセキュリティ対策と正確なシステム資産の管理が求められます。

多くのIT部門が認識しているように、これは決して容易なことではありません。特に、ユーザの期待に応えるスピードでアップグレードを行うのは、大きな負担となる場合があります。ですが、ここで朗報です。

20年以上にわたるAppleとのパートナーシップを活かし、JamfはApple製品のアップグレードを成功させるための詳細なガイドを提供しています。今回が初めてのアップグレードであっても、経験豊富な管理者が復習として活用したい場合でも、安心してご利用いただけます。

新しいOSがリリースされたその日に、IT部門とエンドユーザにアップグレードを推奨し、デバイスの更新を可能にすべき理由が4つあります。

1. セキュリティの脆弱性の低減
2. ユーザエクスペリエンスの向上
3. ユーザの生産性の維持
4. 最新のIT管理機能へのアクセス

このガイドでは、最新のmacOSへのアップグレードを準備および実行する方法について詳しく説明します。さらに、業務への影響や予期せぬダウンタイムを防ぎつつ、macOS Golden Gateへのアップグレードを通じてユーザを支援し、組織に貢献するための知識が得られます。

ベータ版での検証

AppleSeed for ITが提供する次期リリースのプレビューを利用すると、最新のOSバージョンや機能が組織にどのような影響を与えるかについていち早く知ることができます。

ベータプログラムに参加することで、正式なリリースの数ヶ月前に検証を始めることができます。AppleのベータプログラムはmacOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS、visionOSのそれぞれについて、開発者向けの有料版および一般向けの無料版が提供されています。

ベータプログラムに参加すべき理由

1. 通常、これらOSのベータプログラムは複数段階に分けて実施されます。早期に参加してAppleにフィードバックを送ると、アップグレードの一般公開前に報告した機能および問題が修正される可能性が高まります。さらに、フィードバックアシスタントアプリを使用してAppleにフィードバックを送ると、問題の状態や、その問題が修正される見込みのOSバージョンを把握できます。
2. ベータプログラムに参加することで、新機能や互換性のテストをいち早く行えるだけでなく、**ユーザ エクスペリエンスにどのような影響があるのかについて理解を深めることができます**。新たに追加された設定、移動した機能、名称の変更などが把握できるので、トレーニング素材やオリエンテーション資料などを更新する際に役立ちます。このようにしてユーザエクスペリエンスの変化に備えることで、ユーザに配慮したサポートモデルやコミュニケーションプランを用意することができます。

3. 最後に、新たなOSの設定や機能だけではなく、アプリケーション、インフラ、管理やセキュリティとの互換性を事前に検証することが、現在の環境で使用されているソフトウェアを引き続き使用するにあたって不可欠です。Appleが提供するベータ版を試用し、導入されたアプリに問題がないか検証することをお勧めします。Appleからは、様々なお客様の環境でベータ版OSの動作を検証するためのテストプランが複数提供されています。

[Appleのベータプログラム](#)には、無料でいつでも参加できます。将来のOSテストに備えて、早期の情報取得や検証準備に役立つメリットが得られます。品質とユーザビリティに関するフィードバックは、Appleが問題を特定および修正し、ソフトウェアをユーザにとってより良いものにする上で役立ちます。

検証

アップグレードでエンドユーザの業務に不測の問題が起きる事態を防ぎ、最良の結果を確保するため、以下をはじめとするテクノロジー環境全体を検証しましょう。

1 インフラストラクチャ

アプリケーションスタック以外のあらゆるもの（VPNやテストプリンタドライバなど）が含まれます。これらは必ず新しいOSで検証してください。クラウドホスト型サービスへの移行を進めているのであれば、インフラストラクチャの検証にそれほど労力をかける必要はありません。

2 アプリケーション

これにはWebベースのものと、そうでないものが含まれます。すべてのアプリケーションを検証する時間がない場合は、互換性に関するベンダーの声明に基づいて優先順位を決定します。Appleは現在、カーネル拡張機能のサポートを停止し、代わりにシステム拡張のフレームワークを採用しています。Appleのシステム拡張機能への対応については、ご利用のモバイルデバイス管理（MDM）ベンダーにお問い合わせください。

3 デバイス管理

デバイス導入・管理ソリューションが含まれます（MDM、EMM、UEMなど）。こうしたソリューションに、新しい制限、管理機能などの各種機能をテストする機能があるか検証してください。

4 セキュリティ

アイデンティティベースのアクセス管理、エンドポイントセキュリティ、脅威防御、コンテンツフィルタリングが含まれます。前述の管理ソリューションと同様に、お使いのセキュリティソリューションにも新しいセキュリティ機能や仕様をテストできる機能が備わっているかを確認しましょう。

注：Appleはセキュリティ要件の強化を進めています。[サポートページ](#)を参照し、ネットワーク環境の対応方法を確認してください。

検証の優先 順位の決定

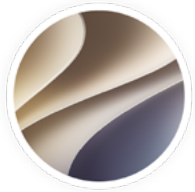
多くの組織では複数のアプリが業務に使用されています。チームによってまったく異なるデバイスの使い方をしているためです。アプリの検証を成功させるには、まず優先順位を決めることが大切です。

アプリの重要度に基づいて検証の優先順位を高・中・低の3段階にランク付けする方法や、アプリの使用状況から優先順位を決める方法があります。優先順位の決め方と分類が決まったら、検証を行なってくれる志願者を各部署（例：開発、マーケティング、財務など）から募り、日常業務での使い心地や物事がスムーズに進むかどうかを確認します。



macOS Golden Gate へのアップグ レード

Macでアップグレードを実施するにはいくつかの方法があります。アップグレードを行うことを決めたら、まず環境内のMacをどのようにアップグレードするかを決めなければなりません。



ブループリントを使用することで、Appleデバイスの管理を簡素化できます。ブループリントでは宣言型デバイス管理 (DDM) プロトコルを利用し、体系的なワークフローでMacのアップグレードを実行できます。複数の手順が1つのプロセスにまとめられているので、複雑な導入も手間なく進められます。

ブループリントの使い方はシンプルで、IT管理者がブループリントを作成し、対象のコンピュータとOSバージョンを定義し、インストールのオプションを選んで、ユーザ環境を構成するだけです。前述のとおりブループリントはDDMを利用しているので、Macからアップデートの進捗状況が積極的かつ自動的にJamf Proにフィードバックされます。

今回のmacOS Golden Gateへのアップグレードのように、OSのメジャーアップグレードを行う場合、ソフトウェアアップデート宣言を利用して都合の良い日時に自動でアップデートが行われるよう設定することをお勧めします。

ブループリントは、Jamf for K-12、Jamf for Mac、Jamf for Mobile、Jamf Premium Cloudでご利用いただけます。

[ブループリントを使ってmacOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方はこちらをご覧ください。](#)



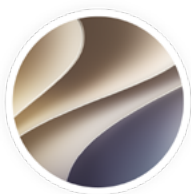
社内デバイスのOS アップデートを自動化

継続的な手作業なしでデバイスを最新のOSに自動でアップデートできるよう、Jamf Proでは1回設定するだけの自動構成機能をご用意しています。推奨される方法は、ブループリントのソフトウェアアップデート設定を利用して、自動インストールアクションを構成し強制タイプに最新のOSバージョンを選択することです。また、強制しきい値をAppleのリリース日（現地時間）から30日以内に構成することもお勧めです。

この方法を導入するには、macOS 15以降のデバイスを使用し、Jamf AccountでOIDCベースのSSOを構成する必要があります。

[Jamf Proを使ってmacOSアップグレードやアップデートを導入する方法について知りたい方はこちらをご覧ください。](#)

アップグレードの準備ができていない場合



いつアップグレードする場合でも、その当日からセキュリティが確保されます

IT管理者がユーザのアップデートの選択肢を増やせるよう、Appleでは新しくRecommendationCadenceキーが構成プロファイルに追加されました。

リリース直後にmacOS Golden Gateにアップデートすると、ユーザは最新の機能やセキュリティ設定をすぐに利用できるようになります。

これ自体は素晴らしいことですが、現場に新しいOSを展開する準備ができておらず、もう少し時間が必要な場合もあります。全面的なアップデートを行う前にセキュリティアップデートを行わなければならないケースもあります。

ご安心ください。こうした事態に備えたオプションが用意されています。IT管理者は、デバイスに最新のOSアップデートを配信する時期を最大で90日まで遅らせて、社内全体に展開する前に内部で検証する時間を確保できます。そのためには、ブループリントのソフトウェアアップデート設定で、リリースの延期日数を日単位で定義します。延期期間が経過した後は、自動適用機能と組み合わせて、手作業なしでアップデートをデバイスにインストールできます。こうすることで、管理者は展開のスケジュールを管理しながら、同時にデバイスにいつまでもパッチが適用されない事態を防止できます。

注：ブループリントの延期設定は、他のプロファイルベースの設定すべてに優先されます。そのため、この設定一つで組織全体におけるアップデートを正確に管理できます。

重要事項

OS 27では引き続き、システム面での従来のMDMワークフローから宣言型デバイス管理への移行が進められています。そのため、従来のMDMのアップデートはサポートされません。

エンドユーザへの通知

最後に、アップグレードによってデバイスで何が起こるのか、そしてどのような形で協力して欲しいのかについて、率直かつ高い透明性を持ってエンドユーザに定期的に伝えましょう。これは、アップグレードのプロセス全体を通して常に意識すべきことです。

アップグレードが可能になる時期、プロセスの詳細、アップグレードの禁止時期のいずれを伝える場合も、エンドユーザとの双方向のコミュニケーションを維持することで作業を円滑に進めやすくなります。

また、このようなコミュニケーションが、この案件に関して発生するヘルプデスクへの問い合わせの削減につながるというメリットもあります。さらに、これらの要望や問い合わせに先回りして対応することで、エンドユーザの満足度を高められるだけでなく、いずれ協力が必要になった際にも積極的に関与してもらいやすくなります。

エンドユーザへの通知手順

1. アップグレードにかかる時間について予備知識がないエンドユーザもいます。アップグレードにかかる平均時間と実行する最適な時間帯についてユーザに知らせておきましょう。
2. エンドユーザに対し、アップデートの前にデバイスのバックアップを取るよう勧めます（ローカルおよびiCloudへのバックアップ）。
3. 指定の開始日から30日以内のアップデートをエンドユーザに義務付けるポリシーを展開するか、アップデートは自動的に行われると伝えます。例えば、PCI DSSなどのコンプライアンスフレームワークでは30日以内が必須とされています。

連絡にはEメール、イントラネット、Jamf Self Service+アプリカタログを利用し、OSアップグレード前の注意事項および推奨事項を十分に伝えましょう。最終的にはそれがエンドユーザのためになります。



アップグレードによる機能強化のメリットを享受する

macOS Golden Gateは、より柔軟でカスタマイズ性に優れたデバイス環境を実現するために、機能やワークフローが強化されています。

シームレスなアップグレードプロセスを実現することは、セキュリティ対策の徹底、正確なシステム資産管理、ダウンタイムの削減を実現するだけでなく、IT部門への信頼や社内評価の向上にも貢献します。Appleデバイスの管理に特化したソリューションがあれば、エンドユーザの利便性を損なわず、IT部門への負荷も最小限に抑えながら、最新のApple OSに対応するための必要な機能が備わります。

Jamfは、エンドユーザの体験を損なうことなく、OSアップグレードを含むAppleのライフサイクル管理を自動化することのできる、唯一の管理およびセキュリティソリューションを提供しています。また、20年以上にわたりApple製品のサポートに力を入れており、新しいOSが発売されたその日からサポートと互換性を約束しています。



トライアルに申し込む

または、販売代理店までお問い合わせください。